

北の大地を拓く！JA つべつ×北見工業大学 オホーツク地域を潤す スマート農業イノベーション

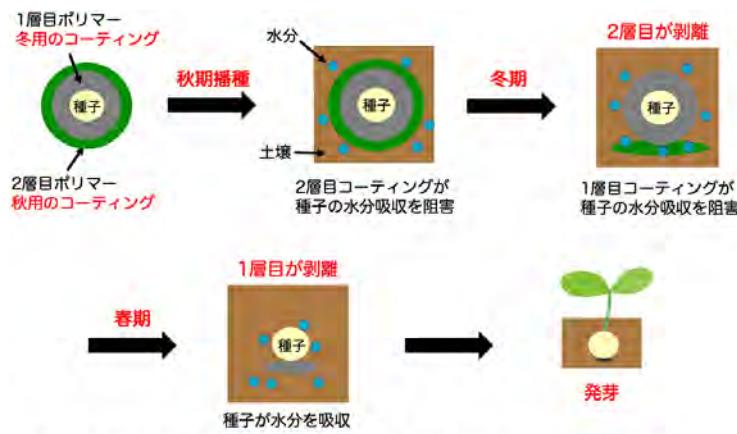
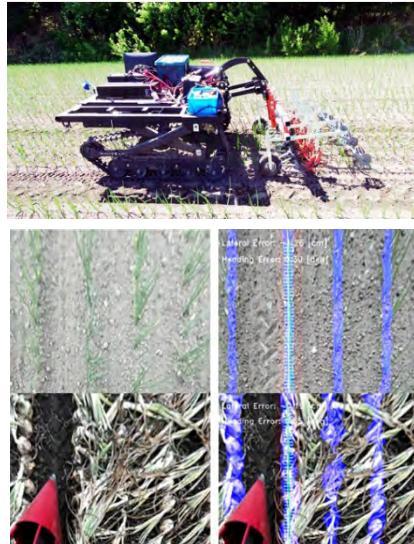
津別町農業協同組合、国立大学法人北海道国立大学機構 北見工業大学 オホーツク農林水産工学連携研究推進センター、NTTドコモビジネス(株)北海道支社ソリューション営業部門、(株)キュウホー

三重苦を抱える「寒冷地・中山間地スマート農業モデル」を地域一体で推進

【目的】 北海道道東地区の中山間地域において課題となっている厳寒・積雪・電波不感といった環境条件の下、農作物の担い手不足等を解決するためのスマート農業の導入。

【内容】 北見工大の「発芽制御」・「AIによる作物認識」・「農作業支援ロボット」という地元大学発イノベーションの社会実装に向け、JAつべつ、NTTドコモビジネスと地域農機具メーカーのキュウホーが「四位一体」となって津別町発の寒冷地・中山間地スマート農業モデルを推進。

【効果】 除草作業の負担を軽減する、作物列認識と自動走行制御を備えた「AIカルチロボ」や、寒冷地でも安定出荷が可能になる「温度応答型玉ねぎコーティング種子」といった学術成果を農業現場主導で実装に繋げる新たな農・産・学連携モデルの確立を目指す。



発芽制御コーティング技術

審査員コメント

▶ 単にICT技術を活用するだけにとどまらず、品種改良にも取り組むなど「全方位での持続的なスマート農業モデル」として全体デザインがなされている点を評価